Fri

鋼管・建材・線材・二三次製品

Steel pipe　Building materials　Wire rod　Secondally and tertially products

Thu 鋼板・二三次製品需要産業　Wed 海外情報　Tue 電炉・スクラップ技術・環境・エンジ　Mon 特殊鋼・ステンレス鋳鍛鋼

関西地区

BCR売り腰強まる

流通高唱え、9万円超

2年10カ月ぶり到達目指す

関西地区コラム扱い流通各社はBCRで9万円（トン当たり、ベースサイズ）以上の価格で唱えを上げており、売り腰が強まっている。扱い流通は8月から唱えを上げ、メーカーの強気の販売姿勢もあり、市中価格は強基調。BCR市況は足元では8万9000円（同）となっている。9万円（同）に到達すれば2014年12月以来、2年10カ月ぶりとなる。

BCR市況は工事の遅れなどの影響により停滞が続いていたが、堅調な建築需要や億単である日形鋼市況の上昇を受け、8月から流通は市中価格値上げに取り組んでいた。足元では一部サイズが歯抜け気味となっており、需給にタイト感が出てきている。今後、建築需要が本格化するとみられていることから、需給のタイト感は強まってくる見通し。

メーカーは鉄材コイルの価格上昇を受けて値上げを発表しており、流通は採算悪化が懸念されることから、値上げ姿勢を強めている。

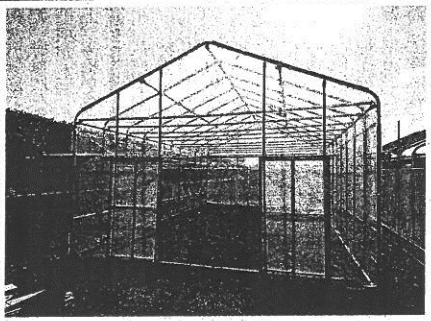
流通関係者からは「仕入れ価格が上昇しており、採算を確保するためにBCRの市中価格は9万円以上が必要。早急に価格を引き上げなければならない」との声があり、今後も売り腰を強めていく構え。当面、市況は強基調とみられる。

日建リース工業

パイプハウスのレンタル開始

高対候性・低コスト実現

軽仮設リース大手の日建リース工業（本社＝東京都千代田区、関山正勝社長）は10月から、低コストのビニールハウス「48ストロングハウス」のレンタルを開始した。建設現場で足場材として用いる48㍉単管パイプを骨組みに使用し、高い対候性を実現。同程度の対候性を持つパイプハウスの初年度導入費用に比べて、約6割のコスト低減にもつながる見込みだ。



48ストロングハウス

近年は台風や積雪によるビニールハウスの倒壊が相次ぎ、農家の経営リスクが高まっている。高い対候性を有する鉄骨ハウスはコストがかかるほか、新規の農業参入に際しても大規模で長期間にわたる投資が障壁となるケースが多い。同社としては、これらの課題を解決する同製品をレンタルすることで、農業経営の安定化や新規参入を後押ししていく構え。

48ストロングハウスは、コンクリート基礎工事が不要なパイプハウス構造で、他社の従来品より太いパイプを用いて高対候性を実現している。灌水や換気・カーテンシステム、冷暖房といった各機能を別料金で付与しており、間口や軒高、奥行など個別条件に応じた設計も請け負っていく方針。直近では東京ビッグサイト（東京都江東区）できょうまで開催中の「アグロ・イノベーション2017」にあたり、積極的なPRにも注力している。月払いの設置に加え、期間中であれば解約金なしで途中解約も可能としている。

今回のレンタル開始

出展しているほか、今後は幕張メッセ（千葉県千葉市）で10月11日から13日まで開催予定の「第7回農業ワールド」にも出展する予定だ。

共和工業所

SSAB社製耐摩耗鋼鋼管

扱いサイズ拡充

4種追加、曲げ加工に対応

産業機械製作、鋼材加工業の共和工業所（本社＝岡山県倉敷市、石本隆一社長）はこのほど、スウェーデンスティール社（SSAB社）製の耐摩耗鋼鋼管「HARDOXTUBE500」のサイズラインアップを拡充した。既存サイズと合わせると5種類になる。

懸案だった曲げ加工（ベンド管）が可能となり、利用価値の向上を図っている。

共和工業所は2009年にSSAB社の製品取り扱いを開始し、12年には認定加工工場となった。耐摩耗鋼鋼管HARDOXTUBE500については、従来はIサイズのみテスト販売していた。

このほど新たに入荷したHARDOXTUBE500のサイズは外径76・1㍉・肉厚3㍉（65A相当）、外径88・9㍉・肉厚4㍉（80A相当）、外径101・6㍉・肉厚5㍉（90A）、外径114・3㍉・肉厚5㍉（100A）の4種類で、長さはいずれも6㍍。従来から取り扱っている外径133㍉・肉厚4㍉と合わせると5種類のバリエーションとなる。

HARDOXTUBE500は、表面の硬度が500ブリネル（保証値470―530HBW）、引張強度1550N／mm2、降伏強さ1300N／mm2、衝撃靭性30J（マイナス40℃）と、耐摩耗鋼板HARDOX500と同じ機械的特性を有していることが特長として挙げられる。溶接性も良好で曲げ加工、切削加工も可能なところが他の耐摩耗鋼管とは異なる。

表面硬度がもっと高く、耐摩耗性に優れている他の耐摩耗鋼管も存在する。このため、HARDOXTUBE500は、耐摩耗性も必要であるが軽量性や加工性も必要といったニーズに合う商品と位置づけられている。

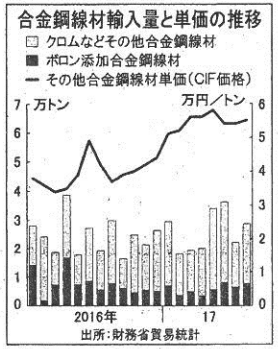
中国製合金鋼線材輸入

前月比30％伸長

8月2.9万㌧

財務省貿易統計によると、8月の中国製合金鋼線材輸入は前月比29・9％増の2万8737㌧と2カ月ぶりに増加した。前年同月比では3・7％減。内訳はボロン鋼添加合金鋼線材が前月比19・5％増の7616㌧（前年同月比0・3％増）、クロム鋼添加合金鋼線材が34％増の2万1121㌧（同5％減）となっている。

中国製合金鋼線材（ボロン鋼添加・クロム鋼添加など）の平均単価は、トン当たり5万4600円（CIF価格）と前月から1000円上昇し、3カ月ぶりにプラスとなった。



主要港における中国製合金鋼線材の輸入量は、千葉が5192㌧

軽仮設リース

8月稼働率60.1％に上昇

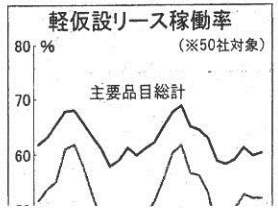
賃貸売上高200億円乗せ

8月の軽仮設リース機材稼働率（50社）は、トータルで前月比0・5㌽増の60・1％に上昇した。賃貸売上高は20・7％増の255億3400万円と9カ月ぶりに200億円を超え、前年同月比でも24％増と2桁増となった。

・3％増と5カ月連続のプラスとなった。

枠組足場の稼働率は前月比横ばいとなったものの、対前年同月で8カ月連続の上振れとなり、堅調に推移。本格的な稼働率上昇には至らなかったが、今後は建築関連で需要期を迎えるほか、東京五輪関連の施設などの建設工事も活発になるとみられ、上昇基調が強まっていく見通しだ。

品種別稼働率では丸角部材や長尺足場材、養生部材が前月比で上昇したが、鋼製型枠と支保工部材は低下した。



薄板類中心に不足感

全鉄連9月DI調査

全国鉄鋼販売業連合会の9月分調査によると、条鋼、鋼板類、鋼管など21品種の在庫状況を